

「受動的な考え方」から「批判的な考え方」への変化 ～中学・高校の人間関係に着目して～

1932070 鈴木璃香

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

近年、教育現場における理不尽なルールや過剰な要求、理不尽な指導に注目されている。このような理不尽なルールや要求にさらされることで、周囲に対して受動的な姿勢が強化されることが考えられる。また、逆に、これらのルールや要求に「おかしい」と感じ、批判的に考えるようになることも考えられる。

論理的・批判的にものごとを考えることを「クリティカルシンキング（批判的思考）」という。本研究では、周囲に対して受け身になることや批判的に捉える姿勢に注目し、過去に他者との関わりの中で生じた理不尽な経験とその対処が、現在における「要求されたことに対して無批判に従わない」といった姿勢にどう結びついているかを調査し、適切な自己形成を促すための教育方法の検討を行う。

2. 目的

本研究では、過去における「教師／保護者／友人との人間関係」「理不尽な経験とその対処」が、大学生を対象として現状の「社会的クリティカルシンキング」に対して、どのように影響しているのかを検討する。そこで、過去の経験として「理不尽な経験とその対処」についての質問紙を用いるのとともに、磯和・南（2015）により作成された「短縮版社会的クリティカルシンキング志向性尺度」を用いた質問紙調査を実施した。

3. 過去の理不尽な経験についての調査

本調査では、過去の理不尽な経験について質問紙調査を行った。

3.1 方法

調査対象者： 本学情報科学部情報ネットワーク学科2、3、4年生（男性35名／女性6名／無回答3名）の計44名が調査に参加した。

調査内容： 中学・高校時代の理不尽な経験の有無とその詳細、親／教師／先輩との人間関係や、大学生の自分から過去の経験を振り返った時の評価、社会的クリティカルシンキング志向性を測るための質問を行った。また、社会的クリティカルシンキング志向性を測るための設問では、短縮版社会的クリティカルシンキング志向性尺度の中の5つの因子の中の「脱軽信」、「真正性」、「対人柔軟性」、「論理の重視」の4つの因子から設問を作成し、質問を行った。

手続き： 調査はオンライン（Webアンケート）形式で実施された。アンケートへの回答は、調査対象者が個々に任意のデジタル端末を利用して行った。

アンケートの実施に関しては、参加者自身のスマートフォンあるいはタブレット端末、パソコンを利用してもらい、Googleフォームで作成された本アンケートの各設問に回答してもらった。調査対象者へは、調査への協力依頼とともにGoogleフォームのURLを提示し、参加者の端末でアクセスしてもらい、回答を行ってもらった。

なお、設問中、中学・高校時代に理不尽な経験に関連する設問があるが、それらの経験が無い参加者に関しては、理不尽な経験があったと想定してもらい、回答を行ってもらった。

3.2 結果

表1に、中学時代の人間関係と社会的クリティカルシンキングの相関関係の全体の結果を示す。相関分析に関する有意性検定を行ったところ、「先生への権威」に対する社会的クリティカルシンキングの各項目との相関に有意性が認められた。

Pearsonの積率相関係数を計算した結果、以下の変数間に有意な相関が見いだされた（両側検定、df=40）（付記のad. pは多数回検定の調整後p値）。

「先生への権威」×「真正性」 $r=0.327$ ($t=2.188$, $p=0.034$, ad. $p=0.09$)

「先生への権威」×「論理の重視」 $r=0.327$ ($t=2.188$, $p=0.034$, ad. $p=0.09$)

表1 過去の人間関係と社会的クリティカルシンキング（中学）

全員の結果	脱軽信	真正性	対人柔軟性	論理の重視
親への親近感	-0.064 ns	-0.016 ns	0.200 ns	0.271 +
親への権威	0.034 ns	0.203 ns	-0.019 ns	-0.048 ns
先生への親近感	0.303 +	0.021 ns	0.240 ns	0.279 +
先生への権威	-0.030 ns	0.327 *	0.296 +	0.348 *
先輩への親近感	0.015 ns	-0.051 ns	-0.146 ns	-0.046 ns
先輩への権威	0.042 ns	-0.083 ns	-0.102 ns	0.040 ns

このほか明確な有意性は確認できなかったものの「先生への親近感」では「脱軽信」と正の弱い相関が確認された。このことから、中学時代の「先生」に対する捉え方と社会的クリティカルシンキングとの間に関係性があることがうかがえる。

4. まとめ

本研究では、中学・高校時代の一部の理不尽な経験に対する対処行動や周囲との人間関係において社会的クリティカルシンキングとの関連性が明らかになった。批判的な考え方の形成に対して過去の理不尽な経験や人間関係が影響をもつ可能性を示すことができた。その一方で、現在の批判的思考に関わる志向性が、過去の経験の再解釈・再評価に影響している可能性についても検討しておくことが必要だと考えられる

参考文献

磯和壮太郎&南学(2015). 短縮版社会的クリティカルシンキング志向性尺度の検討. 三重大学教育学部研究紀要, 自然科学・人文科学・社会科学・教育科学, 66, 179-189.